



masato nakamura
Relive-EIHO Project

<http://www.commandn.net/~eihorelive/>

永芳リライブプロジェクト いよいよプロジェクト始動

拝啓

錦秋の候、貴社ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

2004年2月から、中村政人氏(アーティストイニシアティブ・コマンドN主宰/東京芸術大学助教授)と、じっくりとあたためてきた新プロジェクト「永芳リライブ」プロジェクトがいよいよ始動いたします。このプロジェクトは、永芳閣とそれをとりまく氷見という土地の持続可能な発展を見据えた長期にわたるプロジェクトです。私たち永芳閣は、以前より、永芳閣が向かうべき方向性をずっと探求してきました。民事再生申立後は、その対応と同時進行しながら、創設者/伏脇松太郎や先代/伏脇毅が「永芳閣を通して氷見市になにを創りだしたかったのか」を追体験し、同時に、私たちらしいまったく新しい方向性を見出すため、スタッフ一同で話し合いを重ねてきました。

その渦中、「美術手帳」に古くからの友人/中村政人の「湯島もみじ」の特集を見つけました。中村政人氏は、平成13年のヴェニス・ビエンナーレにも出品している世界的に活躍している美術家であり、私たちは、プライベートな興味や関わりを超えた彼の仕事ぶりには、かねてより尊敬と信頼を持っていました。「湯島もみじ」におけるリノベーションの方向性が、今現在の永芳閣が抱えるものと接点がある予感をもち、私たちは彼に連絡を取りました。



「すでにある予測可能な具体的提案イメージ」ではなく、その「プロセスにおいて何がおこるかかわからない期待」そして、その「プロセスを共に歩み、一緒に創り出していくことへの期待」をもつことができる美術家だと思っています。だからこそ、永芳閣は中村政人氏と一緒に進みたいと思いました。

私たちは、「日本一の氷見の魚を、腕の良い板前が調理して、きちんと提供する。そして、それがお客様や全スタッフ、そして地域社会への貢献となる」という「永芳閣の大原則」を含みつつも超える為に、つまり、私たちの創りたい旅館像のために、心底信頼のおけるアーティストの力が必要だったのです。それが中村政人氏でした。

中村政人氏との半年にわたるミーティングを通して、永芳リライブプロジェクトは、永芳閣の再生事業をきっかけに始まり、ハード/ソフト両面における旅館自体の改善だけにとどまらず、永芳閣は氷見市という地域社会があってこそという視点から、このプロジェクトから派生する新たな価値を、地域社会へと還元させていくものとすることを決めました。この再生事業の様々な広がり、出会い、ホスピタリティのことすべてを「永芳リライブ」と表現することといたしました。

「永芳リライブプロジェクト」のシンボルマークです。



このマークは、永芳閣の「永芳」という言葉の歴史性、意味性、記号性を取り入れ、かつ、氷見の地域的特性を表現しつつ、サステイナブルな精神性を呼び起こすものとしたしました。また、「リライブ」というネーミングは、リノベーション(再構築)、再生とは違う新鮮な言い方を意図しました。「リライブrelive」という表現は、目新しいものですが、(経験・生活などを)(想像によって)再び体験する、追体験する。という意味があります。つまり、生き生きした生活をさらに創造し、かつ、現状に対して(否定ではなく、振り出しにももどるでもなく)肯定的に動き続ける、というニュアンスがあります。永芳閣の「永芳」という言葉にある「良き魂永久に芳ばせ」という大切な精神状況を共有し、遙か遠くを見つめながらじっくりと呼吸を整え、再び力強く着実に歩き始めようと、関係者一同、心を新たにしています。

まずは、スタッフの創造性を導くために、ひとつひとつの課題を全てプロジェクトとしてとらえ、自分たちでそのプロジェクトを主体となって運営し、見えてくる個々の問題点に対処するという「プロセスマネジメント」の論理を取り入れました。わかりやすい部分では、永芳閣のソフト・ハード両面における長期的再生計画のマスタープラン作成、ウェブをはじめとしたパブリシティも既成のスタイルとは異なった冒険を試み始めています。具体的には、制服を一新、より活動しやすくおもてなしの意図が反映された作務衣を導入、全スタッフがシンボルマークの名札を着用することで責任の所在を明確にいたしました。また、スタッフ自身による全分野にわたるマニュアルの作成を開始し、接遇の改善を行ないます。みんなで氷見の野山の草花を持ち寄って館内へ配置し、氷見の地産地消を意図した料理の提供を力強くすすめることで、氷見の海と里山へのつながりを演出します。さらには、2階大広間改装による氷見の食体験へのより深いつながりへと続いていく計画です。

永芳リライブは、サステナビリティ(持続的発展的思考)を追求する新しい取り組みです。施設・おもてなし・料理にとどまらず、氷見という土地がもつ力を最大限に活用する、ゆっくりとした有機的に変化しつづけるプロジェクトです。勿論、旅館内の目に見える部分の変化ももたらしつつ、それ以上の変化をももたらします。今後も新しい展開を予定していますので、継続してお知らせしてまいります。日頃のご厚情に深く感謝致します。永芳リライブプロジェクトの趣旨をご理解いただき、今後益々のご協力をお願い申し上げます。

敬具



氷見温泉郷 魚巡りの宿 永芳閣
女将 平田 淑江
mail okami@eihokaku.com

永芳閣ホームページ <http://www.eihokaku.com/>